

平成28年度
北海道教育大学
附属函館幼稚園だより
NO. 8 【号】
平成28年9月30日（金）



年長の子への憧れ（次は、自分達！）

園長 橋本忠和

9月の運動会、開会式の挨拶の直前に小雨が・・・。「園児の笑顔で吹き飛ばせ！」と願っていたら、太陽も顔を出してくれ、園児や保護者の皆さんにとって、過ごしやすい天候になってホッとしました。

さて、今、運動場には、PTA 演技による綱引きの地割れがしっかり残っています。その跡を見て、運動会当日、演技やその準備・進行の活動を通して、お子さんに寄り添い、楽しまれた保護者の皆さんの頼もしい笑顔を思い出しています。

ある日、私が保護者の方を見つめるのと同じように、4歳児の「電車の線路づくり遊び」の様子を、じっと見つめる3歳児クラスの園児の後ろ姿を目にしました。（右写真）

そして、その姿から異年齢の園児が共に過ごす良さ・価値を再認識することができました。たぶん、3歳児たちは「お兄さん・お姉さんの描いた線路すごい、手作りの電車すごい、ぼくも遊びたい」という想いを広げると共に、年長の造形活動から、造形スキルやイメージの拡張の仕方、友だちとの共創の仕方を学んでいたのだと思います。

年下の子にとって、異年齢の共に過ごす良さをまとめますと・・・

- 1（よくみる）・・・年長の姿に憧れ、その行動を目標にする。
- 2（お手本にする）・・・手本にしてやってみることでスキル等を身につける。
- 3（優しさが受け継がれる）・・・自分が受けた支援（優しさ）ことは、同年代や年少の子へ同じことをすることができる。
- 4（自立心が育つ）・・・真似してできた達成感等から活動への意欲が高まり自立心が育つ。

当然、年長の子にとっても、年少の子に対して優しく対応することを通して、年上としての自覚を持つようになると共に、自然に優しく振る舞うことが出来るようになったり、支援することへの自信が高まったりすると考えられます。

10月7日（金）の附属幼稚園研究大会でも、上記のような、園児の姿をご覧いただけたと思います。当日の会の運営にも支援をお願いすると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

